

平成 29 年 7 月 25 日

眼科に通院中の患者さんへ(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

研究課題名 糖尿病黄斑浮腫患者に対する治療実態の疫学調査

研究責任者 東京医科大学八王子医療センター 眼科 志村雅彦
(共同研究機関と施設責任者)

鹿児島大学	眼科	坂本泰二
東京女子医大糖尿病センター	眼科	北野滋彦
徳島大学	眼科	三田村佳典
福井大学	眼科	高村佳弘
岡山大学	眼科	森實祐基
防衛医科大学	眼科	竹内大
兵庫医科大学	眼科	五味文
奈良県立医科大学	眼科	緒方奈保子
三重大学	眼科	杉本昌彦
神戸大学	眼科	楠原仙太郎
山口大学	眼科	木村和博
杏林大学	眼科	厚東隆志
立川総合病院・慶応大学	眼科	佐々木真理子
東京医科大学茨城医療センター	眼科	岩崎琢也
東邦大学医療センター佐倉病院	眼科	前野貴俊
公立昭和病院	眼科	鷺尾紀章
市立札幌病院	眼科	木下貴正

研究の目的

糖尿病黄斑浮腫とは糖尿病網膜症に伴って網膜の中心部（黄斑）が腫れることによって視力が低下する状態です。これに対する治療としては、現在、最新かつ効果的な治療法とされる血管内皮増殖因子(VEGF)阻害薬の硝子体内注射（眼球に注射）のほか、網膜光凝固術や硝子体手術、ステロイドの眼球への注射という従来の治療もおこなわれており、その治療選択については施設によってまちまちです。そこで、現在、我が国では糖尿病黄斑浮腫にどのような治療が選択され、どの程度改善（悪化）しているかを全

国規模で調査をおこないます。

研究の方法

1 対象となる患者さん

2011年4月1日～2014年6月30日に当科において糖尿病黄斑浮腫と診断され、当施設で初めて治療を開始され、その後2年間以上当施設で診療を受けられた方。

2 利用するカルテ情報

年齢、性別、視力、網膜の厚み、治療方法、治療回数などを調査します。

個人情報の取り扱い

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

利用する情報にはお名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報を含みません。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は、ご連絡ください。

【お問い合わせ先】

北海道札幌市中央区北11条西13丁目
市立札幌病院眼科